

お父さんお母さんと一緒に体験 キッズチャレンジ 2014



▲苗の向きをそろえて植えた、さつまいも苗植え体験

6月14日、さかもと青少年センターと周辺の農地で青少年体験活動キッズチャレンジ2014が開催され、市内在住の親子20組約50人が参加しました。市教育委員会の主催で、親子が一緒に体験することで、驚きや感動を共有し、ふれあいを深めることが目的です。今回は、ペットボトル空気砲やくまモンおにぎり作り、さつまいも苗植え体験などが行われました。さつまいもの苗植えでは、親子で会話をしながら1組20株を植えました。暑い日差しの中、汗をぬぐいながらの活動にも関わらず、親子からは笑顔が溢れ、共に過ごす時間を楽しんでいました。井口秀仁くん（松崎町）は「お母さんと一緒に苗植えをして楽しかった。収穫が楽しみです」と話しました。今回植えた苗は、10月に収穫する予定です。

花を育てて心を育む 高田小学校で花育活動



▲花束できたよ

6月30日、高田小学校の2年生50人が、校庭の畑で育てたヒマワリ約1000本の収穫と花束づくりを行いました。花と緑に親しむことで、優しさや美しさを感じる情操面の向上を目的に、県花き協会八代支部が開催しており、今回で2回目です。児童たちは、4月22日にサンリッチレモンなど5種類のヒマワリの種まきを行い、これまで水やりやヒマワリ観察などをして大切に育ててきました。自分の身の丈ほどあるヒマワリを引き抜くと空高く持ち上げ、「たくさん抜けた」「きれい」など喜びを口にしました。収穫後は保護者の協力の下、色や大きさなどバランスを考えながら、大切な人へ贈る花束を作りました。芳崎樹くんは「初めてヒマワリを収穫した。優しいおばあちゃんに贈りたい」と満面の笑みで話しました。

文化振興などに役立てて やつしろがめさん WAON 寄附金贈呈式



▲左から松尾博文マックスバリュ熊本事業部長、中村市長、柴田祐司イオン九州代表取締役社長

6月17日、やつしろがめさんWAON寄附金贈呈式が市長応接室で行われ、イオン九州とマックスバリュ九州から平成25年度分として合計237万3190円が、市に贈られました。全国のイオン系列店で利用できる電子マネー「やつしろがめさんWAONカード」の利用金額の0.1%が、平成23年7月の地域貢献協定に基づいて寄附されたものです。柴田祐司イオン九州代表取締役社長と松尾博文マックスバリュ九州熊本事業部長が、寄附金額が記された「やつしろがめさんWAON」パネルを中村博生市長に手渡し、市長からは感謝状が贈られました。寄附金は、やつしろ文化振興基金への積み立てと文化財の保存・継承・活用事業に使われる予定です。

30年の奉仕活動に幕 八代ライオネスクラブから最後の寄附



▲北岡教育部長に寄附金を手渡す道田会長



▲八代ライオネスクラブの皆さん

6月14日、グランラセーレ八代で奉仕団体「八代ライオネスクラブ」の結成30周年記念式典が行われ、同時にその歴史に幕を下ろしました。八代ライオネスクラブは昭和59年2月に発足し、献血や清掃、寄附などの活動を続け、市や福祉施設などに30年で1000万円を超える寄附をしてきました。この日は、不登校児童を支援している八代市適応指導教室「くま川教室」に20万円の寄附を行い、最後の活動となりました。北岡教育部長は「有効に活用し、不登校児童の減少に努めます」とお礼を述べました。設立時には63人いた会員も、高齢化などが進み12人に減少。道田都美代会長は、「氣力体力の限界を迎え、心残りはあるけれども満足感でいっぱいです」と話しました。

八代駅に花植えと七夕飾り 肥薩おれんじ鉄道マイフラワー事業

からたち保育園と夕葉保育園の園児37人が、八代駅を賑やかにしようとして7月3日、花植えと七夕の飾り付けを行いました。肥薩おれんじ鉄道と肥薩おれんじ鉄道沿線活性化協議会による企画で、今



▲短冊を結びつけ願いを込める園児たち

年が5回目です。花植えではポーチュラカとセラニウムをプランターに植え付け、JRを気持ちよく利用できるよう改札口付近に並べました。七夕の飾り付けでは「サツカー選手になりたい」「保育園の先生になりたい」など将来の夢や、家族や友達への健康を願った短冊を声に出しながら飾り付けを行いました。駅から七夕一色に染めま

ひと工夫で売れる商品に 6次産業化・農商工連携セミナー



▲講演する伊東正寿さん



▲熱心に聞き入るセミナー参加者

6次産業化・農商工連携をテーマにしたセミナーが6月23日、鏡町の市農事研修センターで開催されました。講師に県の6次産業化プランナーで流通コンサルタント代表の伊東正寿さんを招いて「成功に導く6次産業化の販売戦略の考え方」全国で通用する商品企画販路開拓」と題した講演が行われました。市フードバレー推進課が事業推進の一環として企画したもので、農林水産業者や飲食業者など約60人が出席。伊東さんは「売れる商品開発にはコンセプトが大事で、それには経営資源や市場環境の分析が重要である。売れ方は、アイデアを活かしたネーミングやパッケージで変わってくる」と参加者へ語りかけました。このセミナーは今年度あと3回程度予定されており、次回からは模擬商談会や個別相談などを交えながら伊東さんが指導していかれる予定です。

初めての廃校跡地の利活用 しょうがの里河俣発電所落成



▲完成した太陽光パネルをバックに記念撮影

7月5日、東陽町の旧河俣小学校で太陽光発電所「しょうがの里河俣発電所」の落成式が開催されました。これは、市の公募による「廃校跡地グラウンドの利活用」事業の一環で、北海道帯広市に本社がある道東電機が建設したものです。事業費は約5000万円です。発電事業だけでなく環境教育の場としての施設の活用もできるようにしています。また、発電による収入の一部は、地域振興策として地元のみちづくり協議会に寄附されることが決まっています。式典には、市や道東電機の関係者、地域住民に加え、くまモンも参加してテープカットやくす玉割りで施設の完成を祝いました。式典後には、北海道の食材を味わうジギスカンパーティーがあり、事業者と地域住民が交流を深めました。

競技を通じて交流 いきいきふくしスポーツ大会



▲ゲートを狙ってクラブを振り抜く選手（一発必中）

7月5日、市総合体育館で「第9回いきいきふくしスポーツ大会」が開催され、約350人が参加しました。この大会は市の主催で、障がい者と健常者が一緒にスポーツを楽しみながら相互の親睦を深め、障がい者の社会参加の推進などに寄与することを目的

として行います。開会式では、わいわい虹の村・きらきらの里の河内政昭さんと半田晃さんが「元気良く、いきいきと競技します」と宣誓。40メートル競走をはじめ、フライングディスク投げや大玉ころがしリレーなど、ユニークなスポーツ用具を利用したレクリエーション性の高いスポーツ全13種目に、参加者はさわやかな汗を流しました。また、大会の見所である応援合戦では、とまピンも参加。参加者とともにダンスを踊り競技にも参加するなど、大会を大いに盛り上げました。



おしえて青年海外協力隊



▲プロジェクターを使い、アフリカでの活動内容を話す水永貴夫さん

県内在住の青年海外協力隊経験者が講師を務める「おしえて青年海外協力隊」が、6月13日に市立第八中学校で行われ、全校生徒や教師ら約90人が出席しました。講師は、平成20年から2年間、東アフリカにあるウガンダ共和国で村落開発普及員として活動した水永貴夫さん（西片町）です。現地で行った稲作の普及やかまど作り、帰国後の活動などの話があり、生徒たちは興味深そうに聞き入っていました。山田美羽さん（3年生）は「海外の文化を直接聞き、海外へ行ってみたいとさらに強く思いました」と話しました。

い草デスクマット贈呈



▲贈呈に訪れた橋本八代支部長（前列右）と組合員の皆さん

6月12日、熊本県豊工業組合の橋本和則八代支部長と組合員4人が市役所を訪れ、中村博生市長にい草デスクマットを贈呈しました。い草には、汗ばむ夏でも肘や腕がべたつかない効果があり、今後、モニターアンケートなどの感想や意見を基に改良し、生産を進めていく予定です。橋本支部長は「県や全国にも、い草デスクマットを広げたい。東京オリンピックでは、外国人にも豊の良さを知ってもらい、需要拡大を目指したい」と話しました。

平和会から寄附



▲贈呈に訪れた平和会の皆さん

平和会（代表理事 前田速水さん）から寄附の申し出があり、5月27日に市長応接室で贈呈式がありました。同法人は、公益法人制度改革に伴い、財団法人から一般財団法人へ移行。財産の一部を公益事業に支出することから、今年度分30万円の寄附が行われたものです。今後、毎年30万円を130年間（総額3900万円）にわたり寄附されます。中村博生市長は「貴重な寄附金、有効利用します」とお礼を述べました。寄附金は、本年度から市の農業振興に関する事業に活用されます。

青年海外協力隊員 帰国報告



▲バングラデシュの民族衣装のサリー姿で報告に訪れた橋永みゆきさん（右）と永原辰秋副市長

JICA青年海外協力隊として2年間バングラデシュで活動した、橋永みゆきさん（東陽町）が市役所を訪れ、副市長に帰国と現地での活動報告を行いました。橋永さんは、平成24年6月から26年6月まで、村落開発普及員として活動。住民のニーズを行政に届けるなど、住民と行政のパイプ役を担う活動を主に行ってきました。「周りの人に助けてもらい、多くのことを学びながら活動してきました。今後は、この活動で学んだことを、多くの人に伝えていきたい」と笑顔で話しました。

北新地保育園 幼年消防クラブ結成



▲幼年消防クラブ員となった年長・年中児クラス

6月26日、鏡町の北新地保育園で幼年消防クラブ結成式が行われ、園児や関係者ら約50人が出席しました。これは、幼年期から、正しい火の取り扱いや消防の仕事に理解を深めるとともに、その家族や地域の防火意識を高め、火災の減少を図ることを目的に、八代広域幼少年婦人防火委員会が行っているものです。同園の結成により、クラブ数が39、クラブ員数が1549人となりました。園児らは「私たちは守ります。火の用心」と大きな声で防火の誓いを行いました。

子どもごみパトロール報告書 贈呈



▲贈呈に訪れた八代・金剛小学校の児童と次世代のためにがんばる会会員など

7年間の球磨川流域におけるゴミパトロール活動の記録をまとめた小冊子「子供ゴミパトロール隊 in やつしろパトロール日誌」ができあがり、6月19日、活動に参加した小学生たちが中村博生市長と広崎史子教育長へ冊子（880冊）を贈呈しました。日誌には、ゴミの種類や落ちていた地域のほか、子どもたちの感想や意見がまとめられています。児童たちは「活動を通して、ゴミや環境に対する意識が変わった。ゴミを捨てる人を見かけたら注意したい」と報告しました。